

市から市大への原案作成依頼

28 総大政第 14 号
平成 28 年 6 月 30 日

公立大学法人名古屋市立大学
事務局長 三宅 勝 様

名古屋市総務局長 三芳 研二



第三期中期目標素案の作成について（依頼）

公立大学法人名古屋市立大学第二期中期目標の期間が平成 29 年度で終わることから、第三期の中期目標（平成 30 年度～平成 35 年度）の策定に向けて取り組んでいるところですが、地方独立行政法人法第 78 条 3 項に基づく市立大学からの意見聴取として、下記の通り第三期中期目標素案の市大案（以下「素案（市大案）」と言う。）の作成を依頼します。

記

1. 第三期中期目標の策定に向けた基本的な考え方

第三期中期目標の策定に向けては「**高等教育や地域貢献に関することなど大学としての基本的な目標については継続的に取り組むこととし、市の総合計画などに掲げられた少子化・高齢化・グローバル化の進展、リニア中央新幹線の開業、国の大学改革・医療制度改革などの視点を加える**」こととする。

今後、策定作業を進めていく中で、目標の最終年度の平成 35 年度を見据え、社会情勢の変化及び国や市における新たな方針などを踏まえて柔軟に対応する。

また、第三期中期目標期間中の財源措置については別途協議する。

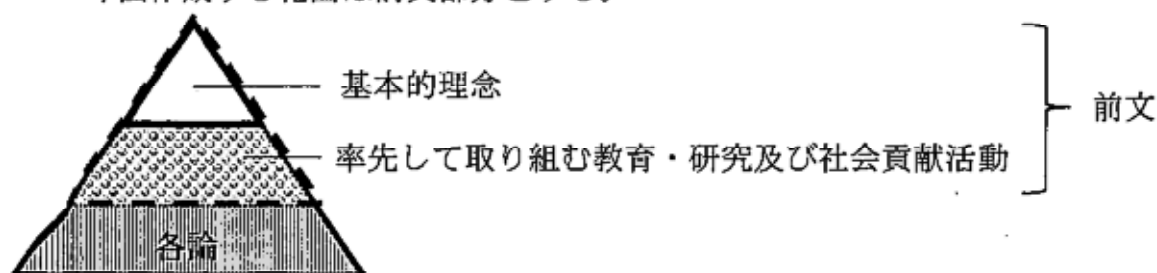
2. 素案（市大案）の作成について

(1) 作成方法

作成にあたっては市が提示する「基本的な視点」をもとに作成することとする。

(2) 作成範囲

今回作成する範囲は前文部分とする。



(3) 基本的な視点

基本的な視点については、(1) 素案（市大案）作成に向けた基本的な考え方、をもとに下記の三点に整理した。なお、各視点がどの各論部分へ展開するかについて、「今後展開する各論部分」に第二期中期目標の各論の構成を例にして示した。また、

それぞれの視点を受けて中期目標の各論や中期計画への掲載について「検討すべき課題」について、名市大未来プランなどから主なものを整理した。

- ・ 「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」
- ・ 少子高齢化が進行するなかで、若者の活躍、子育て世代や高齢者の支援、市民の健康と福祉の向上、産業経済の発展など、本市を取り巻く諸問題や、リニア中央新幹線の開業などを見据えた新たな魅力づくりについて、知の創造と継承を目指して真理を探究する大学として、高等教育機関にふさわしい知的創造力を以て解決に取り組み、市民が安心していきいきと暮らせるよう積極的に地域社会へ貢献することにより、名古屋のさらなる発展に寄与

今後展開する各論部分

- ・ 教育に関する目標、研究に関する目標、社会貢献等に関する目標、附属病院に関する目標

検討すべき課題

- 全学的な社会貢献の推進
 - なごやかモデル事業の成功
 - 地域に開かれた大学
 - 市民の医療ニーズに対応した医療提供体制の強化
 - 地域社会を担う優れた医療人の育成
 - 東部・西部医療センター等との連携強化による名古屋市全体の医療機能の充実
 - 病診連携の推進
 - スクールカウンセラーの養成
 - 全学部・全学科を対象とした給付型の奨学金の創設 など
- ※ ○は未来プランに掲げられた項目、●はその他

- ・ グローバル化が進展する中で、全学が一体となって世界をリードする教育・研究を実践するとともに、国内外に広く大学の魅力を発信することにより、開かれた学びの場として多くの若者などに選ばれ、地域社会や国際社会の発展に貢献することのできる、豊かな感性と、自ら活路を見出すための思考基盤を持った、バランス感覚に優れた人材を育成

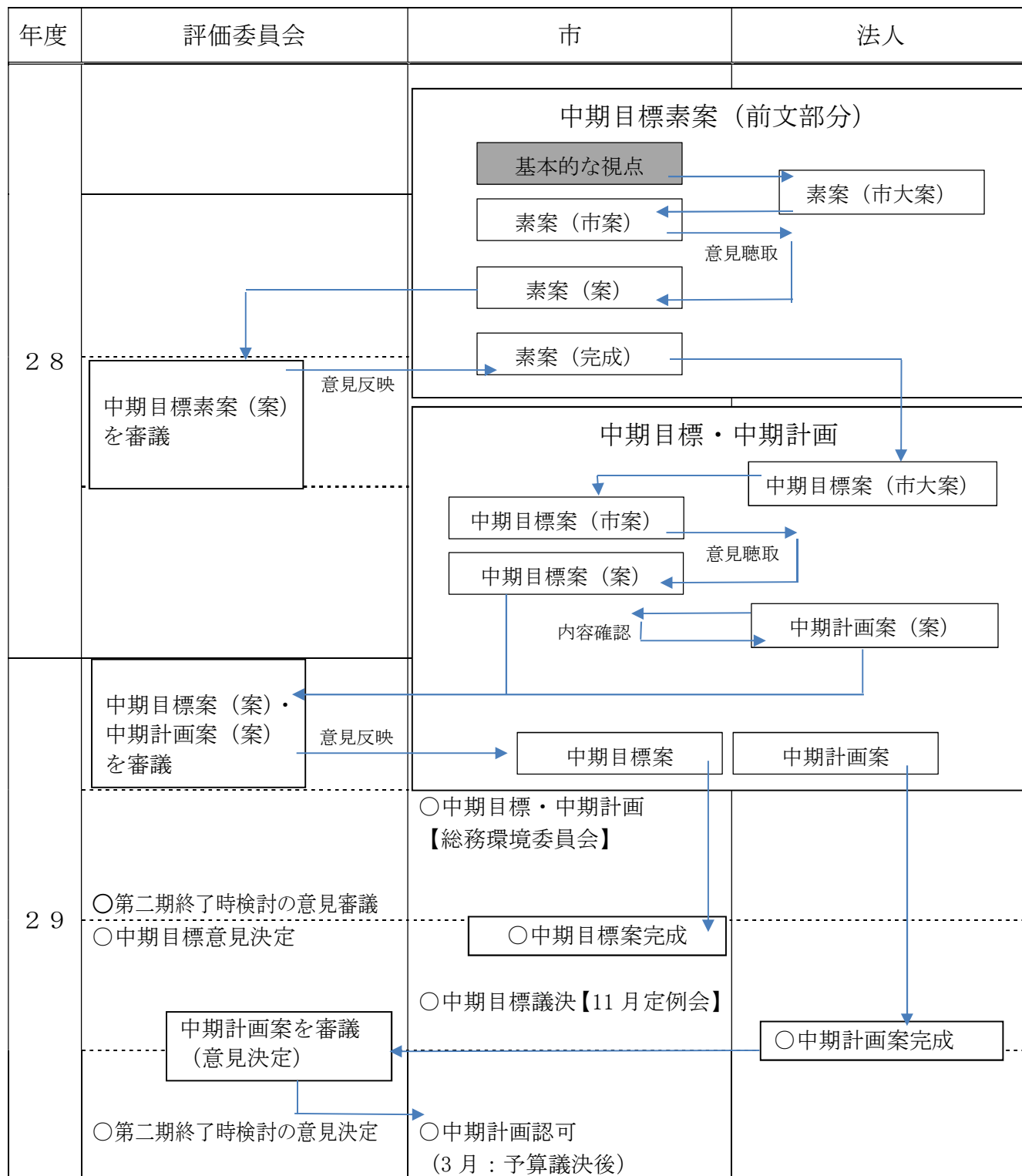
今後展開する各論部分

- ・ 教育に関する目標、研究に関する目標、国際化に関する目標
- ・ 業務運営の改善及び効率化に関する目標、財務内容の改善に関する目標、自己点検・評価、情報の提供等に関する目標、その他業務運営に関する重要目標

検討すべき課題

- 世界をリードする大学へ発展
 - 新学部を設置
 - 分散したキャンパスの統合
 - 多面的な教養教育の実施
 - 学生支援のワンストップ化
 - リカレント教育の充実
 - 国際交流センターの充実
 - 臨床研究の強化による新しい医療の創設
 - 全学的な意思決定の体制整備
 - 資産の有効活用と自己収入の確保
 - 本学の知名度の向上
 - 大学教職員の人材育成・登用
 - 入学者受入方針の検討・整備 など
- ※ ○は未来プランに掲げられた項目、●はその他

(4) スケジュール



※ 市の関係部局へヒアリングを実施

※ 平成29年の8月ごろにパブリックコメントを実施予定